

東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾





塾長 黒沢 永紀

■ 塾長コメント ■

『東京で長崎ーッ！と叫ぶ塾』（以下「叫ぶ塾」）は、「東京から見えてくる長崎」をベースにした長崎のPRが主な活動です。

何を隠そうこの私が、長崎伝習所始まって以来の、長崎出身でもなければ長崎に在住経験もない塾長です。東京の中野に生まれ、それ以来ずっと東京に住んでいます。そんな私が最初に長崎を訪れたのは、今から約15年前のこと。昨今話題の軍艦島を訪れるためでした。それ以来頻りに長崎を訪れていますが、当初は軍艦島へ行くだけの訪崎で、長崎のことは何も知りませんでした。お恥ずかしながら“往年の専用観光地”くらいにしか思っていなかったのです。しかし、何度か通ううちに長崎の街にも魅力を感じるようになりました。「和華蘭」の言葉で表される“ハイブリット・カルチャー・シティ長崎”が、とても新鮮な街に見えたのを今でも覚えています。

私は映像作品の制作や書籍、雑誌の執筆等も手がけるので、それらを使って長崎の魅力を自分なりに発信しようと思い、実践してきました。

そんなおり、長崎伝習所の東京塾の塾長の話を頂いたので、より長崎をPRすべく、引き受けることにしました。東京で長崎の名物

をたずねても、ちゃんぽんすら言えない人がかなりいます。“往年の専用観光地”の反省も含めて、これまで以上に長崎の魅力を発信できるチャンスと思いました。

■ 塾の目的 ■

叫ぶ塾の大きな目的は、より深い長崎愛を持ってもらうことと、長崎のPRです。

塾生の約半数は長崎の出身者、そして残りが長崎外の出身者で構成されています。

長崎出身の塾生には、この塾に参加することで、改めて故郷である長崎を深く知り感じてもらえる場になればと思いました。また長崎外出身の塾生には、長崎をより正しく深く理解し、感じてもらう場となればと思いました。

私は前述のようにメディア制作に携わっているので、そのノウハウを生かして、塾生の成果を、目に見える長崎のPRにしようと考えました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

叫ぶ塾の目的を達成するための塾の具体的な活動は、大きく分けて2つです。

1つは、塾生各自が興味ある長崎に関するテーマを決め、それを研究・調査や実践・実行して、年度末に報告する《長崎レポート》です。塾生各自の活動に委ねたのは、東京で活動する多くの人たちが仕事に時間をとられ、共同でなにかをすることが極めて困難だと判断したこと。同時に、1人で長崎と向かい合ってレポートにまとめることで、しっかりと自分の長崎を認識してもらえと思ったからです。

もう1つは市内の産業遺産を巡る《産業遺産見学ツアー》の開催です。軍艦島をはじめ

とした市内の多くの産業遺産は、世界遺産登録を目前に控えて、今にわかに脚光を浴びています。産業遺産の見学ということ自体新しい体験であるのに加えて、従来長崎の観光名所としてそれほど取り上げられてこなかった産業遺産を体験することで、新しい長崎を体験して欲しいと思いました。

■ 塾活動の成果 ■

第一の活動である《長崎レポート》は、それぞれ長崎をより深く知り感じることのできるレポートを提出いただきました。在京長崎人の塾生は、さすが長崎の出身だけあって、普通の観光ガイドにはあまり出ていない視点でとらえた長崎の報告ばかりです。

また長崎外出身の塾生は、産業遺産見学ツアーへの参加が主な目的でしたが、中にはツアーの感想を含めて、レポートとして提出していただいた塾生もいます。

なお、これら塾生のレポートは、叫ぶ塾が運営するウェブサイト『長崎、なんでんかんでん』にアップし、長い間閲覧できるようにしたいと思っています。

www.nagasaki-nk.com(2015年5月OPEN)



(サイト『長崎、なんでんかんでん』の表紙)

第二のテーマである《産業遺産見学ツアー》は、2014年11月23日(日)と24日(月)に行ないました。塾長である私が、長年にわたり軍艦島関連の書籍や映像作品を多数

発表していることから、その得意分野を生かし、産業遺産を通して、長崎を体感してもらい、同時にPRをしようという試みです。

見学ツアーには20人が参加し、内訳は在京長崎人塾生と長崎出身以外の塾生が約半数ずつ。在京長崎人の塾生は、近くて遠かった故郷の新しい顔を体感したことと思います。

また長崎出身以外の塾生は、メディア関係者を中心に構成しましたが、これはまぎれもなく、見学ツアーを何らかの形で発信していただくのが目的です。

さらに、見学ツアーの取材をNHKにオファーし、NHK-BS『新日本風土記』で取り上げていただきました。



(軍艦島非公開エリアの見学の様子・中央奥のマイクを持っている一団はNHKの取材班)

その結果、2月には東京スポーツ新聞で8回の連載を私が執筆、また、夏前にはオール読物(文藝春秋社)での執筆も決まっています。さらに、軍艦島の概要から世界遺産の動向までを1本にまとめたブルーレイ・パッケージ作品の制作も予定されています。いずれも見学会に参加いただいたメディア関係の塾生からのオファーです。

活動 1 塾生各自の自主活動

■概要■

叫ぶ塾の塾生が、各自興味のある長崎のテーマを自ら調査・研究および実践・実行し、それを年度末にレポートとして提出。

レポートは長く閲覧できるウェブサイト『長崎、なんでんかんでん』に掲載し、長崎のPRに貢献する。

■各塾生レポート・ダイジェスト■

1 東京の長崎

レポート：藤馬 寛剛

東京にある長崎を楽しむ！をコンセプトに、長崎としか思えない街並や、長崎人が集まる隠れ家的飲食店等を紹介。

街並としては、南山手とみまがう、南品川にある煉瓦塀や、谷根千の長崎を彷彿とさせる石階段など。

飲食店としては、赤坂にある五島出身のママが切り盛りする「バー・ダグアウト」や海星高校出身のマスターが楽しい、同じく赤坂の「ike 亭」など、長崎を堪能できる隠れた名店を紹介。



(手料理が最高に美味しいダグアウトのママ)

長崎のアンテナショップがない東京にとって、長崎を体感できる場所は極めて少なく、これらの情報は、東京で長崎一ツ！を感じることができる貴重なものと言えるでしょう。

2 長崎の坂

レポート：辻川 智子

長崎は坂の街。数多ある坂の中から、意外と知られていないけれど魅力ある場所、歴史の証人たる場所、こんな角度で見たらいいのに、を基準に選りすぐりの坂を 10 か所紹介。



(異国情緒溢れる唐人屋敷の坂)

坂は、長崎の景観上きわめて重要な要素であり、同時に市内を歩くとき、もっとも長崎を体感できる場所のひとつでもあります。その坂を取り上げることは、長崎らしさを知ってもらう最初の入口かもしれません。

3 それいけ！さくら号

レポート：森川 麻紀

前出の辻川さんと同様、長崎の坂にまつわる話。しかし森川さんのレポートは、坂そのものではなく、高齢者と障害者を主な対象とした斜面移送システムの紹介。



(立山にある移送システム「さくら号」)

2000年以降市内に設置された斜面移送システムは3基。「さくら号」は2003年に完

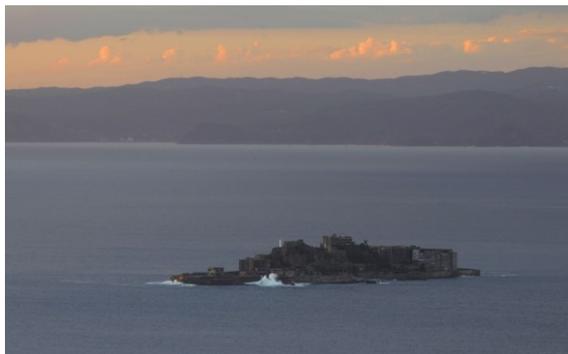
成した 2 番目のもの。途中の階段踊り場にはゴミの収集箱が置かれているなど、まさに長崎ならではのスポットといえます。

今後はさらに設置されていくのでしょうか、移送システムを設置できないほど狭い坂道や階段も数多くあるそうです。坂は長崎の特徴的な景観であると同時に、生活に困難を与える大きな要素でもあるということがわかります。

4 野母崎の魅力～軍艦島ビューとお薦めスポット～

レポート：酒井 透

東京出身の酒井さんは、11 年前の市町村合併で長崎市へ編入された野母崎の魅力を伝える報告をしてくれました。



(野母半島先端の権現山からの眺望)

世界遺産の登録を目前にひかえて脚光を浴びる軍艦島。そのビュースポット紹介では、夫婦岩や高浜海岸はもとより、軍艦島を含めた眺望が素晴らしいレストランやカフェも併せて紹介。

また野母崎のお薦めスポットでは、飲食店を中心に、物産センターや樺島のおおうなぎまで網羅。

年間平均気温が 18 度と暖かく、季節によってはエメラルド色の海が見られる野母崎の魅力を、軍艦島の眺望と併せてもれなく紹介しています。

5 軍艦島と中ノ島

レポート：下山 敦子

下山さんの生まれ故郷は、瀬戸内海の軍艦島とよばれる契島(ちぎりしま)。その生い立ちゆえに、長崎の島々には並々ならぬ思い入れをよせる塾生です。

レポートは主に産業遺産見学ツアーの感想を中心に、離島出身ならではの感覚を散りばめながら、軍艦島の隣にある中ノ島の報告も含めた貴重なもの。



(軍艦島より炭鉱開発が早かった中ノ島)

中ノ島は軍艦島の海上公園であると同時に火葬場でもあった、いわば軍艦島の光と影を担った島。そんな島を長崎の一部として紹介できることは、とても貴重なことだと思います。

6 池島へ行こう～5 分でわかる池島～

レポート：山内 悟

佐世保出身の山内さんのレポートは、九州最後の炭鉱があった島として、にわかにも注目を集める池島。概要はもちろん、さるくの見学コースから住宅棟エリアの楽しみ方、食と宿泊からアクセスまで、さらっと読めてわかる情報満載。

さらに島民よりも多いといわれるネコに注目し、生息エリアがわかる島内マップと、それぞれの特徴の項は、ネコ好きには貴重な情報となるでしょう。



(池島の島内に残る 8 階建ての炭鉱住宅跡)

7 超弩級戦艦“武蔵”誕生秘話

レポート：前田 利夫

2015 年の 3 月、アメリカの探査チームによって海底に眠る船体が発見され、改めて注目される戦艦武蔵。



(最後の戦いに旅立つ武蔵)

もともと三菱造船所で建造された武蔵は、長崎と縁の深い戦艦。シュロスダレで覆われたドックや対岸に位置するグラバー邸の買い取り等、建造時のエピソードから撃沈までを追ったドキュメンタリー。

話題の武蔵をおさらいするのにうってつけのレポートです。

8 千々石ミゲルを感じる旅のススメ

レポート：高崎 祐子

天正遣欧少年使節の一人としてスペインへ渡り、帰国後も宣教師の道を歩みながら、厳しい弾圧で棄教した千々石ミゲル。その足跡を辿る旅の提案。



(天正遣欧少年使節の図に描かれたミゲル)

大村の市内からはじまり、雲仙を経由して市内の二十六聖人記念館で終わる旅は、長崎市を、市内だけでなく、県全体の中で息づく街と感じることのできるものです。

9 きんつばは長崎発祥

レポート：柏原 久美子

一般的に京都が発祥と言われている和菓子のきんつばが、実は長崎発祥だったという仮説をたてて、女神大橋に程近い金鰐地域のレポート。

金鰐のバス停にはじまり、クリスチャンだった金鰐次兵衛が隠れていた洞窟、さらに火の神とお金の神を祀る手袋岩の報告は、謎めいたストーリーに幼少の思い出を重ね合わせた、長崎の新しい楽しみ方を提案。



(物語の発端となる金鰐のバス停)

一つ前の千々石ミゲル、そしてこの金鰐次兵衛と、長崎がいかにキリスト教と密接な関係にあるのかを改めて痛感します。

10V・ファーレン長崎 アウェイでの楽しみ方と提案

レポート：西村 瑞穂

J2 に昇格した長崎のサッカーチーム「V・ファーレン長崎」。そのファンであることの魅力と、サッカー場を含めた今後のあり方への提言レポート。



今後への提案では、市内へのスタジアム建設から、スタジアムグルメにじげもん料理を取り入れることまで、様々な提案が出されています。

11 長崎ラグビーチーム「不惑倶楽部」の長崎遠征報告

レポート：杉浦 美德

長崎は、市内の6中学にラグビー部があり、クラブも6つある、国内有数のラグビー市。そんな市内で育ち、長崎大学のラグビーチームに所属していた杉浦さんの、40歳を越えてから参加したシニア・ラグビーチームのレポート。



(大村の放虎原グラウンドに立つご本人)

パンツの色分けで年代を表すという日本発のルールにのっとった不惑ラグビー。その象徴的チームとも言える不惑倶楽部の遠征報告は、おそらくあまり知られていないと思われる長崎とラグビーの関係を知ることのできるレポートだと思います。

12 長崎ペディア作成

レポート：西 克也

長崎ペディアとは、長崎に特化したウィキペディアのこと。これまで見てきたレポートのように、長崎とは様々な名産や歴史が混在する街です。そんな長崎こそ、ウィキペディアのようなウェブページが必要だと感じます。

コンピュータ・プログラムのお仕事をされている西さんは、そのノウハウを生かし、これまでなかった長崎ウィキペディアをウェブ上に立ち上げてくれました。



(長崎ペディアのアイコン)

今後、多くの方々が書き込むことで、長崎の情報がよりよく伝わって行くことと思います。

そして、これらのレポートを、ウェブサイト『長崎、なんでんかんでん』にアップし、長く閲覧できるようにすることで、長崎のPRに少しでも貢献できればと考えます。

www.nagasaki-nk.com(2015年5月OPEN)

■リポート外の活動

また、リポートという形ではない活動も行ないました。

13 麻布十番で長崎一ッ！と叫ぶパーティー 久松 絵理

昨年の7月13日(日)に行なった『麻布十番で長崎一ッ！と叫ぶパーティー』は、久松さんによる塾の活動。麻布十番にあるワインバー「スピード」で行った、在京長崎人の懇親会パーティーです。

長崎プレゼンショーをプラスすることで、単なる親睦会の枠を越え、より深く長崎愛を感じられる会にすることを目標にしました。

司会進行は島原出身のアナウンサー、中村直美さん。そしてバイキングスタイルで並んだ食事は、久松さんプロデュースのじげもん料理と中村さんにご用意いただいた五島の魚やかんざらし。長崎づくしの料理に、参加者はみな大喜びでした。



(五島直送の新鮮なお刺身)

パーティーの中盤から始まった長崎プレゼンショーでは、長崎くunch塾所属で塾生でもある高山さんの『面白いくunch講座』、魚の町紋付組の笠原さんによる『くunch話』、ジャーナリストで塾生でもある酒井さんの『野母崎の魅力』、そして、長崎伝習所の前東京塾である在京長崎感・考・塾の田尾塾長の『長

崎と東京の違い』と、各自バラエティに富んだ長崎のプレゼンでした。

ただ、パーティーの途中からプレゼンショーを始めたので、一部のお客さんしか聞いていなかったのは残念でした。懐かしい長崎の話に花が咲き、プレゼンを聞いている余裕がなかったのかもしれませんが。もし次回こういったパーティーを開くときがあったら、プレゼンショーは冒頭でやりたいと思います。



(『くunch話』をする紋付組の笠原さん)

プレゼンショーのあとは抽選会。文明堂総本店様からの桐箱入り特製カステラや軍艦島コンシェルジュ様からの軍艦島上陸ペアチケット3組という協賛賞。そして、くunch話の笠原さんからは、2014年くunchの公会堂での砂かぶり席ペアチケットを特別賞としてご用意していただきました！また、島原市様からは全員分の島原そうめんを、会場でのフリードリンクとして、霧氷酒造様から軍艦島焼酎を6本、それぞれご協賛いただきました。



(特別賞「くunch砂かぶり席」の授与)

■成果

塾生各自によるレポート制作によって、各自が自分にとっての長崎を再認識していただけたことと思います。これは、塾生がまず自分の内側にしっかりとした長崎を持ってもらうことがとても重要なことだと思ったからです。

そして、これら塾生のレポートを長崎PRウェブサイト『長崎、なんでんかんでん』にアップすることで、長崎のPRに貢献出来ればと考えます。

また、『麻布十番で長崎一ツ！と叫ぶパーティー』の様子は、長崎新聞に取材いただき、その週の水曜日に掲載されました。



東京で長崎の活性化活動がしっかりと行なわれていることを、長崎の方々にも知って頂けたことと思います。

活動2 軍艦島と長崎産業遺産再発見ツアー

■概要

塾生各自の活動とは別に、軍艦島の非公開エリアと市内の産業遺産を巡る見学ツアーも塾の活動の一つとして開催しました。

塾長である私が長年にわたって軍艦島を映

像、書籍、ウェブ、アプリ等、あらゆるメディアを使って伝導して来た経験を生かし、塾生に、産業遺産を通して見る新しい長崎を体感して欲しかったからです。

■見学ツアーレポート

2014年11月23日(日)と11月24日(月)で実施。

23日は軍艦島の非公開エリアを、24日は中ノ島炭鉱跡と小菅修船場跡を見学。幸い2日間とも天候に恵まれ、両日ともけが人もなく、無事終了することができました。

1 軍艦島非公開エリア見学ツアー

塾生20人で実施。内訳は長崎出身者と長崎外出身者で約半々。長崎出身者には、近くて遠かった軍艦島を体感することで、故郷がもつ素晴らしい遺産を再認識してもらえたと思います。また、長崎外出身者は、映像制作および紙媒体関係者を中心に構成しました。これは、上陸体験後に何らかの発信をしようことを前提とした選択でした。



(小中学校の前にて参加者全員で記念撮影)

見学時間は約2時間半。小中学校からスタートして炭鉱施設を通過し、一般見学コースを横に見ながら、住宅棟エリアへ。アパートの内部へも入りつつ、山頂の神社まで含めた、完全一周コースを巡りました。実はこのコースは、軍艦島の歴史を、時間を追って話がで

きる道順でもあります。黎明期から閉山までの話のあいまに、世界遺産の話題や軍艦島がいかにか未来都市だったかの話を散りばめつつ、見学ツアーはあっという間に終了。

特に、主力の豎坑(たてこう)の深さが600メートル以上あり、常に開口していた話に、塾生が一番驚いていたのが印象深く残っています。



(多くの塾生が驚いていた第二豎坑跡)

2 中ノ島炭鉱跡見学

中ノ島は軍艦島に最も近い島で、軍艦島よりも早くから炭鉱として開発されていました。規模は小さいながらも、軍艦島同様、人工の護岸で島の周囲をかため、人工地盤の上に炭鉱施設と住宅を建てて操業していた島です。その操業は明治時代のわずか数年でしたが、現在でも当時の豎坑跡をはじめとした炭鉱施設が残存します。世界遺産申請のタイトルは『明治日本の産業革命遺産』。明治時代ものがほとんどない軍艦島より、むしろ世界遺産にふさわしい島かもしれません。

後に、中ノ島は軍艦島の火葬場として使われるようになり、更に戦後には緑化されて、軍艦島の海上公園の役割も担うようになる数奇な島です。

長崎出身の塾生は、みなさん実家で過ごすために参加されず、この日の参加者は長崎外出身の塾生だけでした。

■成果

1NHK-BS『新日本風土記』オンエア

両日の見学ツアーには、NHKの撮影クルーが取材同行し、その様子は2015年の1月に『新日本風土記』で放映されました。



(中ノ島での『新日本風土記』撮影風景)

2 東京スポーツ新聞掲載

塾生の一人、東京スポーツ新聞の記者の方からオファーをいただき、塾長である私が執筆したコラムが2015年の1月~2月、8回の連載で掲載されました。



3 オール読物(文藝春秋社)掲載予定

塾生の一人、文藝春秋社の編集者からオファーをいただき、塾長である私がコラムを執筆。2015年の6月に掲載予定です。

4.SNSでの発信

もちろん、参加塾生にはSNSをじゃんじゃんアップしてもらいました。一人平均200人の繋がりがあると考えると、その告知人数は4,000人になり、大きなPRになったと思います。

塾生感想(50音順)

■柏原 久美子

皆が知っていて私が知らなかった町や行事、皆が知らなくて私が知っている故郷。今まで見なかった、いや見ようとさえしなかった長崎を、東京で長崎一ツと叫ぶことで見えてきたような気がします。何十年もお江戸の人になっていたのかもしれないけれど、奥深い故郷長崎を、この東京でこれからもまた見つけ、知らせたいと思います

■酒井 透

軍艦島がきっかけとなり野母崎に通うようになりました。今回、このような場を借りて野母崎の魅力を発信できたことを大変嬉しく思います。これからも野母崎や長崎の魅力を発信して行きたいと思っています！

■下山 敦子

軍艦島非公開部分には、かつての住人の切なく、懐かしい“気”が残っていました。島を去るのは、さぞ無念だったろうと察します。

Facebookに載せると、意外にも軍艦島ファンが多かったことが驚きです。私がこのツアーに参加するにつき、関わってくださった全ての皆様にお礼申し上げます。

■田尾 正行

昨年まで2年間「在京長崎・感・考・塾」の塾長として活動してましたが、今年は塾生として黒沢塾長のもと、東京から見える長崎を考えてきました。

個人的には、塾のバックボーンとなる、在京長崎人の集まりである「在京・長崎 LOVERS SOCIETY」をつくり、イベントな

どで長崎出身者の繋がりを広げる活動をしてきました。

叫ぶ塾で行った「麻布十番で長崎一ツ！と叫ぶ」イベントにも多数メンバーが参加し、その他、長崎関連のイベント情報告知、長崎出身者による「東京で食べるちゃんぽん会」「トルコライスを食べる会」「遠足の会」「旗揚げの会」などなど、多数の参加者を集めることができ、新しい繋がりができました。

また、昨年6月に行われた「じげもんライブイン東京」では、長崎の企業や個人の協賛が70数社。観客が約150人の大きなイベントとなり大成功を収めました。東京に住む長崎出身者の輪が一気に広がった感じがします。

長崎伝習所の東京塾は、長崎以外に住んでいるからこそ見えてくる長崎を考えることに意味があると考えています。叫ぶ塾で行った軍艦島の視察は、長崎に住んでいた頃には知らなかったことを、東京に住む人間の目で見ることができたことで、大きな収穫だったと思います。ただ、私のテーマである「長崎人が美味しいと思うちゃんぽんは東京の人にとっても美味しいものか？」という課題については年度を跨ぎそうです(笑)

■高崎 祐子

Facebookに参加して間もなく「長崎の人、集まれ」に登録して、「在京・長崎 LOVERS SOCIETY」でたくさんの方々と知り合い、そして無謀にも「東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾」に参加させていただきました。

たまたま失業中で暇を持て余していたので、勢いでこの活動に参加させていただきましたが、活動的な皆さんの集まりだったので、気後れもせず楽しく参加させていただきました。

就職してからはなかなか時間が取れず、今後は別のボランティア活動に参加することにしたので、次年度のお手伝いは残念ながら無理ですが、息子が就職して私が年金生活となったら、またお手伝いさせていただきたいと現在思っております。

黒沢さんはじめ、田尾さん他のメンバーさんに対して、素人のくせにズバズバと思ったことをたくさん言ってしまったことは恥ずかしいところですが、私には本当に楽しい時間でした。長崎市の関係者の皆様、叫ぶ塾の皆様、1年間ありがとうございました。

■高山 美枝子

長崎伝習所からスタートしている長崎くんち塾に所属し、関東でもより多くの方に長崎くんちを知ってもらえるよう活動をしてきました。草の根活動のような日々はそれなりに充実しているのですが、これでいいのだろうか?とも思っております。

今回『東京で長崎ーッ!と叫ぶ塾』に参加させていただき、研究発表という形で、解りやすく多くの方に『長崎くんち』を伝えるにはどうしたら良いかと色々考えました。

2013年には長崎くんちの主な行事を動画で撮影していたので、これを使い、ナレーションも自分で入れて作ってみようと思い作り始めました。

慣れない編集ソフトや失敗ばかりのナレーション。何度も繰り返し、たった15分足らずの物を作るのに悪戦苦闘の日々でした。足りない映像は長崎の友人からいただき、いろんな方に助けをもらいながら作りました。長崎とのやりとりも増え、とても楽しい時間を過ごすことができました。

まだまだ納得のいくものにはなっていませんが、このような機会を作っていただいたお蔭で これからももっと勉強をし、より解りやすいもの作りを、発信していきたいと思っています。

■辻川 智子

2014年度の塾活動には、なかなか参加できず、「長崎の坂道・路地を覗いてみよう」という個人テーマで簡単にまとめました。

そこで見えてきたものは、これらの坂道は長崎の貴重な観光資源だということ。現在も行われているような歴史探訪に加え、季節ごとの散策企画、坂道での市民マラソンなどができたら…と思います。市民マラソンや駅伝を開催し、「山の神」は、箱根駅伝だけではなく、長崎から誕生させることができるのでは?といった妄想もあります。

このように楽しく自由に塾の活動ができたのも黒沢塾長、塾のみなさま、長崎市東京事務所の方々のおかげです。心よりお礼申し上げます。今後も長崎の魅力を探して、地道に友人たちに伝えていきたいと思っています。

■藤馬 寛剛

私は、今回の塾に参加して、自身のテーマとして、東京で長崎を意識できるところを探すことに取り組みました。在京の長崎出身者のお店や、長崎に似た景色を切り取り、紹介をすることを試みました。

一方、塾のテーマである軍艦島(端島)全域への上陸も楽しみにしていました。私は、生まれて長崎を出るまでは、長崎市内に在住していましたが、父の実家が野母崎町ということもあり、軍艦島には、幼少の頃より慣れ親しんでおりました。その軍艦島が閉山したの

は私が小学生の頃でした。以来 40 年、一度は上陸して、閉山後の様子をじかに見たいという思いを、本塾でかなえることができ感激でした。

また、塾の活動を通じて、在京の長崎出身の皆様と知り合うこと、楽しむことができたことも、私にとって本塾への参加によって得られた大きな財産のひとつです。

今後も東京で長崎を PR できるような活動に取り組んでいきたいと思っています。

■西村 瑞穂

V・ファーレン長崎というプロスポーツチームを、長崎の活性化のコンテンツにしたいという気持ちと、自分自身がVファーレンのサポーターであるということもあり、楽しく提案ができました。

来年もこのテーマを深く提案できるように、現在も継続して活動中です。長崎市、長崎県、クラブ、サポーターの連帯を深めていきたいと考えています

■久松 絵理

昨年の7月15日、麻布十番から長崎一ツ！と叫ぶパーティーを開催させていただきました。この日皆様に長崎料理を提供させていただき、在京の方々の強力なお力添えもあり、数々の協賛品やプロの司会進行、そしておくんちの話など、素敵な夜に感謝いっぱいの日になりました。

11月、待ちに待った軍艦島へ初上陸。自分では絶対入れない非公開エリアです。使いかけの電化製品や転がっている一升瓶…。当時のまま風化していくこの島に、言葉では表せない何かを感じました。

とても貴重な体験をさせていただいたこの塾に感謝したいと思います。

■藤田 茂

長崎出身の者は、軍艦島を眺めたことはあっても、上陸したことがある者はほとんどいなかったと思います。私もその一人ですが、本塾にて上陸、さらに非公開エリアを歩けたことは大変貴重な経験でました。おそらく二度とこの地に足を踏み入れることはないだろうとの思いで、隅々まで目を見張り、往時の繁栄を想うことがでました。

また、私の場合、曾祖父、祖父とも明治期から三菱の社員であり、高島の技師長、所長などを歴任していた過去から、間違いなく端島を訪れていたに違いなく、その足跡を辿るようで大変感慨深く、後日墓参りで報告しました。

東京では軍艦島の魅力を知人に語り、数名が旅行に出かけてもらうことができました。私はもっと多くの人に長崎に目を向けてもらうには、私自身がもっと知ることが必要であると痛感しました。今回は、東京出身の黒沢塾長のはからいで、軍艦島非公開エリアに上陸できたのであるが、改めて感謝申し上げたいとともに、長崎出身の者より長崎に詳しい人の存在に、非常に触発されたものである。

■森川 麻紀

東京出身の黒沢さんが塾長になってくれたことの意義は大きかったです。長崎人だけが集まって長崎一ツと叫んでもそれはどこまでも同窓会の枠内に過ぎず、いかに県外の方に認知してもらうか、いかに県外の方を取り込むか、それが鍵だと思っていました。

ここ東京で塾をやる意味と務めをさらに深く考え、推し進めていきたいと、翌年度の意欲に繋がりました。

■山内 悟

初めて池島を訪れてから10年が経ちました。以後、島を訪れるたびに少しずつ色んなところが無くなったり止まったりするのを見てきました。池島は今ゆっくりと眠りにつこうとしているようにも見えます。役目を終えた後も人の日常と交わりながら朽ちていくその姿は、端島(軍艦島)のようなドラマチックさはありませんが、人の心に染み入るように響くものがあるように思います。

今回の塾では良い機会なので、自分の整理も兼ねて池島をテーマにしてみました。池島に興味を持った人の背中を押せたら嬉しいです。

東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾

塾長	黒沢 永紀				
1	久松 絵理	21	古川 泰裕	41	
2	高崎 祐子	22	岩永 陽輔	42	
3	杉浦 美德	23	山崎 尚	43	
4	西村 瑞穂	24	伊崎 忍	44	
5	田中 麻紀	25	牟田 賢太郎	45	
6	藤馬 寛剛	26	武田 昇	46	
7	前田 利夫	27	笠原 慎也	47	
8	高山 美枝子	28	桜庭 一樹	48	
9	下山 敦子	29	田村 耕一郎	49	
10	西 克也	30	柏原 寛司	50	
11	藤田 茂	31	福田 史郎	51	
12	田尾 正行	32	福田 好宏	52	
13	酒井 透	33		53	
14	山内 悟	34		54	
15	田村 由樹	35		55	
16	辻川 智子	36		56	
17	柏原 久美子	37		57	
18	中西 朋	38		58	
19	中村 奈美	39		59	
20	竹田 之	40		事務局員	東京事務所 渡辺 清英